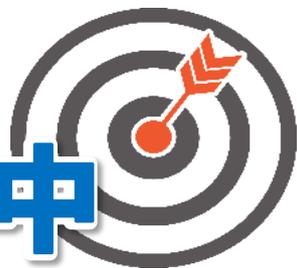


2023
ズバリ! 的中



古文

上智大学

本文の一部が一致

入試問題

2月3日実施 TEAP利用方式
三 A

河合塾

冬期講習 難関大私大古文
第四講 B

三 A Cの青砥左衛門(名は藤綱)について記した文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の関係上、返り点、送り仮名を省いたところがある。

A 青砥左衛門と云ふ者あり。数十箇所の所領をチギヨウして、財宝豊なりけれども、衣裳には細布のヒタタレ、布の大口、飯の菜には焼きたる塩、干したる魚一つより外はせざりけり。出仕の時は木鞘巻の刀を差し、木太刀を持たせけるが、ジヨシヤク後は、此の太刀に弦袋をぞ付たりける。かやうに我が身のためには、聊かも過差なる事をせずして、公方の事には千金万玉をも惜します。

(太平記)

B 演習問題
つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

報光寺・最勝園寺二代の相州に仕へて、引付の人数に列なりける青砥左衛門といふ者有り。数十箇所の所領を知りして、財宝豊かなりけれども、衣裳には細布の直垂、布の大口、飯の菜には焼きたる塩、干したる魚一つよりほかはせざりけり。出仕の時は、木鞘巻の刀を差し、木太刀を持たせけるが、叙爵の後は、この太刀に弦袋をぞ付たりける。かやうにわが身のためには、いさかも過差なる事をせずして、公方の事には千金・万玉をも惜します。また飢えたる乞食、病れたる訴訟人などを見ては、分に従ひ品によりて、米銭・絹布の類ひを与へれば、仏菩薩の悲願に等しき慈悲にてぞありける。ある時、徳宗領に(1)沙汰出でて来て、地下の公文と、相模守と陳に番ふ事あり。理非懸隔して、公文が申すところ道理なりけれども、奉行・頭人・評定衆、皆徳宗領に憚つて、公文を負かしけるを、青砥左衛門ただ一人、権門にも恐れず、ことわりの当たるところをつぶさに申し立てて、つひに相模守をぞ負かしける。公文不慮に得利して、所帯に安堵したりけるが、その恩を報せんとや思ひけん、銭を三百貫俵につつみて、後の山よりひそかに青砥左衛門が坪の内へぞ入れたりける。青砥左衛門これを見て大いに怒り、「沙汰の理非を申

(出典) 「太平記」
(出題校) 法政大 T日程
(重要語句)
○過差
○品
○沙汰
○地下
○番ふ
○ことわり
○つぶさなり
○全く
○上
○様
○よし
○さても
○以つてのほか